

前方後円墳の第5号墳からは、2か所の埋葬施設が確認されました。1号埋葬施設は箱式石棺と呼ばれる形態で、希有なことに未盗掘であり、追葬された5人分の人骨が出土しました。箱式石棺は内法で長辺約1.9m、短辺約0.8mの長方形で、北側がやや広く造られ、主軸は南北方向に向いています。蓋石は約400kgの雲母片岩製の板石3枚、側石は東側3枚、西側2枚、北側及び南側各1枚の板石で構築されていました。2号埋葬施設はすべての板石が持ち出されていました。部分的に残っていた埋葬施設の痕跡から、1号埋葬施設と同様の箱式石棺と推定されます。1号埋葬施設と異なり、主軸は東西方向に向いています。第5号墳は出土した遺物などから、7世紀初め頃に築造されたと考えられます。

方墳の第18号墳の横穴式石室は、盗掘を受けて、ほとんどの板石が持ち出されていました。石室に残されていたのは約500kgの雲母片岩製の板石2枚で、本来は堅固な石室が造られていたことが窺えます。残念なことに、人骨や副葬品などは確認できず、詳しい築造時期などについては不明です。

#### 4まとめ

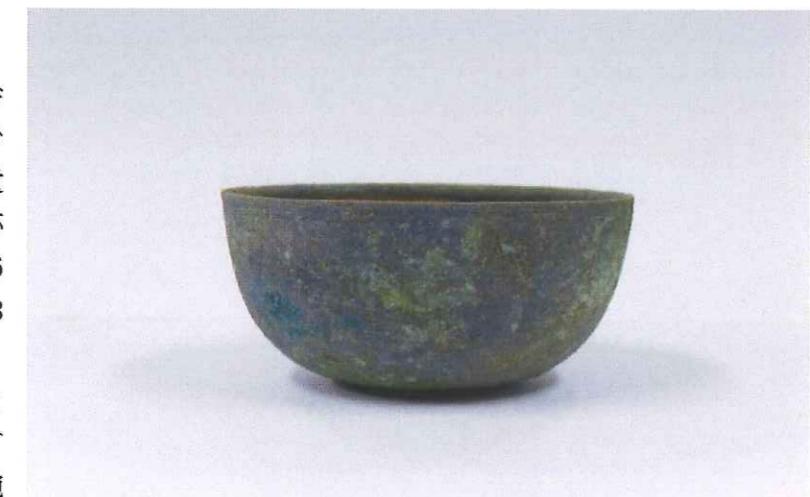
下河原崎高山古墳群の中で、これまでの調査によって全貌が解明された古墳は少なく、また、未盗掘の古墳は極めて珍しいことです。また、銅鏡の出土例は少なく、これまでに茨城県内の16か所の遺跡で確認されています。集落跡や寺院跡からの出土が11例、古墳からの出土が6例、合計17例で、第5号墳の銅鏡は18例目となります。

奈良時代以降の銅鏡は仏教関連遺物との共伴が多く、仏教の影響や浸透を示す遺物と言われています。古墳時代の銅鏡は、首長墓級の大規模な前方後円墳や中規模の前方後円墳や円墳からの出土例が多く、霞ヶ浦沿岸地域の後期古墳などから出土しています。そのため、下河原崎高山古墳群第5号墳から銅鏡が出土したこと、その被葬者らが地域の有力豪族の一族であり、当時の最新的な宗教や文化であった仏教を進んで取り入れることができ、現在の西谷田川流域を舞台に活躍した首長的な存在であったことが想像されます。

この発掘調査遺跡現地説明会資料は、調査段階の限られた情報かつ部分的な成果をまとめたものです。  
つきましては、引用・掲載はご遠慮願います。



第5号墳の墳丘などから出土した金環と蛇紋岩製丸玉



第5号墳の1号埋葬施設から出土した銅鏡



第5号墳の周溝などから出土した須恵器

この発掘調査遺跡現地説明会資料は、調査段階の限られた情報かつ部分的な成果をまとめたものです。

つきましては、引用・掲載はご遠慮願います。

平成28年10月8日(土) 発掘調査遺跡現地説明会資料  
上河原崎・中西特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

## 下河原崎高山古墳群 (しもかわらざきたかやまこふんぐん)

所在地：つくば市下河原崎字三夜山449-2番地ほか

調査期間：平成28年6月1日～10月31日

調査面積：3,246 m<sup>2</sup>

委託者：茨城県土浦土木事務所つくば支所

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（つくば下河原崎事務所）

TEL 029-225-6587 http://www.ibaraki-mabun.org

### 1 古墳群の概要

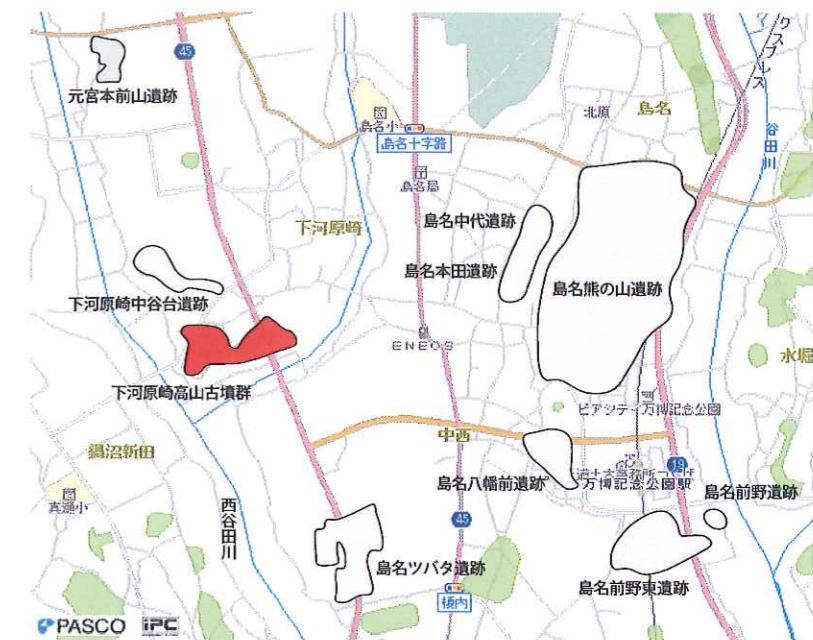
当古墳群は、つくば市の南西部に位置し、西谷田川左岸の標高20～25mの台地上に立地しています。台地上からは西谷田川流域の低地を一望できることから、古墳の築造には好適地と考えられます。当地域は、古墳時代になると遺跡数の増加が顕著となり、前期では谷田川に沿った島名熊の山遺跡、島名前野遺跡、島名前野東遺跡などで集落跡や方形周溝墓などが確認されています。中期になると集落は西谷田川沿いにまで広がり、島名ツバタ遺跡や元宮本前山遺跡などでも集落跡が確認されています。後期になると集落は台地の内陸部にまで広がるほか、古墳群11か所で古墳約300基が確認されており、多くの古墳が築造されたことが窺えます。当古墳群は前方後円墳や方墳、円墳の17基で構成されています（形状や位置が不明確なものも含む）。今回、調査した前方後円墳と方墳は、つくば市立高山中学校東側の古墳グループに属しています。当財団は昭和57年に第3号墳（報告書では第2号墳）と第4号墳（報告書では第1号墳）の一部を、平成18年に第5号墳の一部を調査し、当古墳群は古墳時代終末期（7世紀代）に築造されたと推測されています。

### 2 調査の概要

今回、古墳時代の前方後円墳1基と方墳1基を調査しました。

第5号墳は墳長38mの前方後円墳で、1.5～2mの墳丘をのこし、周溝が全周するなど、築造時の墳形をよく留めていました。

第18号墳は一辺14mの方墳で、すべての墳丘が削平され、方形にめぐる周溝と、盗掘を受けた横穴式石室を確認しました。



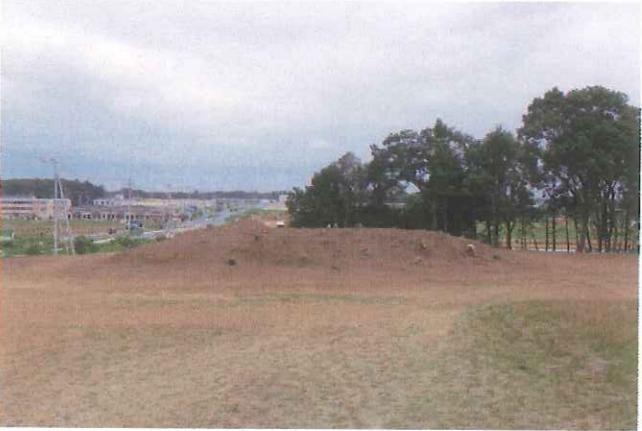
下河原崎高山古墳群と周辺の遺跡

（『いばらきデジタルまっぷ』より、一部加筆）



下河原崎高山古墳群と周辺の地形

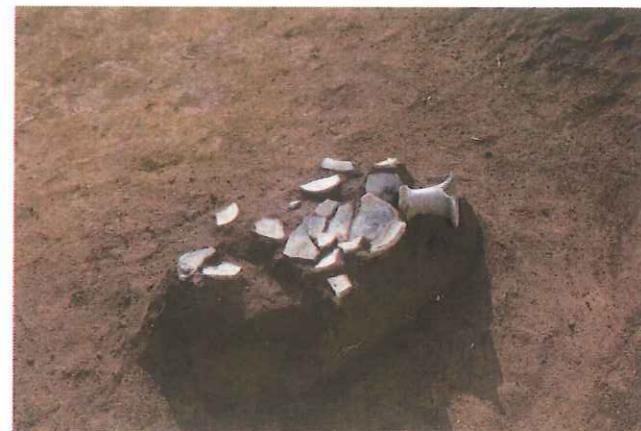
### 3 調査の成果



調査前の第5号墳



第5号墳の墳丘盛土の状況



周溝から出土した須恵器（フラスコ形瓶）

第5号墳の1号埋葬施設（箱式石棺）の調査経過



①埋葬施設の埋め土を取り除くと、白色粘土で覆われた箱式石棺の蓋石が現れました。



墳丘の残る第5号墳と墳丘を失った第18号墳

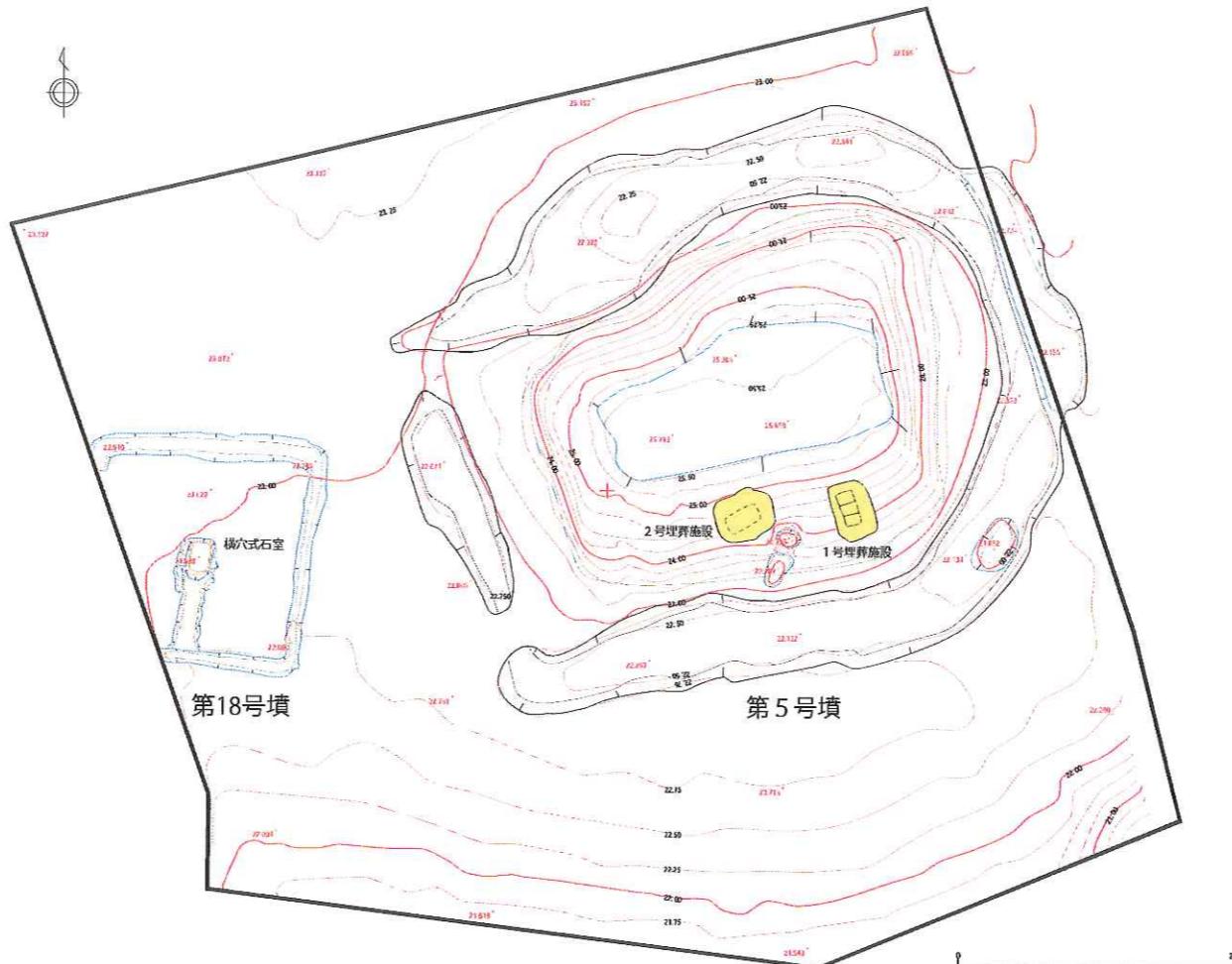


第5号墳（前方後円墳）の全景（上が東）

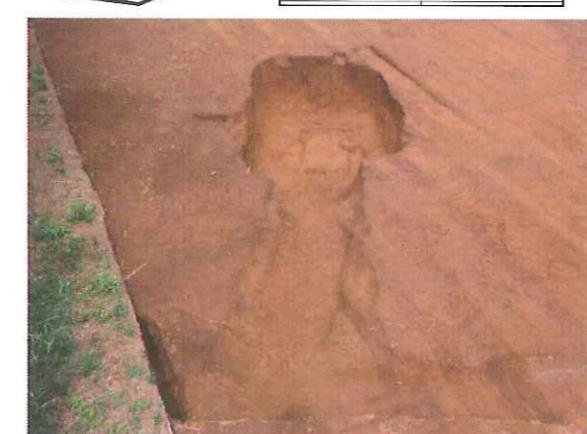


第18号墳（方墳）の全景（上が北）

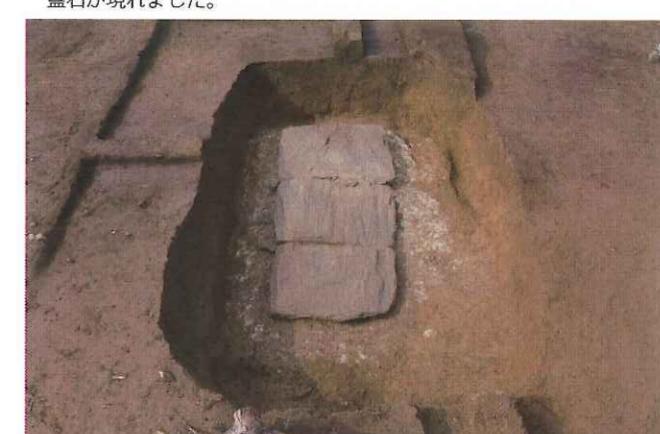
下河原崎高山古墳群 第5・18号墳測量図



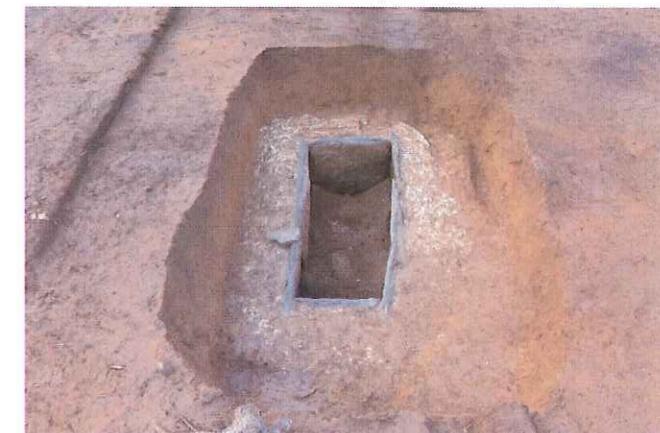
盗掘に遭った第18号墳の横穴式石室



第18号墳の横穴式石室の掘方



②白色粘土を外すと、雲母片岩製の蓋石3枚が完全に露出しました。それらの蓋石は、大きさから約400kgと推定できました。



③1400年ぶりに蓋石が外されました。石棺内部には頭蓋骨や大腿骨の一部、銅鏡などの副葬品があり、未盗掘と判断しました。



第5号墳の1号埋葬施設（箱式石棺）の内部